

リンゴ紫紋羽病に対する フロンサイドSCの防除効果

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成14年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－リンゴ－病害虫防除
分類コード 04－01－23000000

2 担当者

佐々木正剛・菅野英二

3 要旨

リンゴ紫紋羽病に対するフロンサイドSCの土壌灌注処理による防除効果および本剤の簡易な処理方法を検討した。試験は安達郡安達町下川崎東北リンゴ団地の紫紋羽病発生ほ場で実施し、「つがる」/「M.26」の17年生5～12樹を供試した。

- (1) 2000年10月27日(秋処理)に3種類の処理方法により、フロンサイドSC 500倍液を1樹当たり50ℓずつ土壌注入した。その際の薬剤注入時間は、石原バイオサイエンス製灌水器注入法(専用灌水器をスピードスプレーヤーに接続)が10分以内、共立エコー製灌水器注入法(開発中の動力噴霧機)が約15分、またグロスガン処理後のスピードスプレーヤー動噴注入法が約5分であった。
- (2) 3処理とも重症樹の本数が減り、発病程度も処理時の発病程度から進展することはなかった。また発病程度が軽くなる樹もみられ、防除効果が認められた。処理方法の違いによる防除効果の差はなかった。いずれの処理法ともに葉害の発生などは認められなかった。
- (3) 2001年6月11日(春処理)に、フロンサイドSC500倍液を1樹当たり50ℓ処理した試験(石原バイオサイエンス製灌水器注入法)では、処理後1年半経過した調査で発病本数および発病度の減少がみられ、防除効果が認められた。
- (4) 以上のことから、フロンサイドSC500倍液の1樹当たり50ℓ処理は、紫紋羽病の防除に有効であり、春、秋のいずれの時期に処理しても防除効果が認められた。処理方法は、石原バイオサイエンス製灌水器注入法を用いて、幹の周囲半径1mの範囲を主幹部を中心として放射状に注入処理する方法が、作業能率の点で優った。

4 その他の資料等

なし